

神奈川県 特別研究A部会

2021. 5. 24 第1回

1

今日の流れ

- 講師、スタッフ紹介
- A部会の研究趣旨
- 参加者の自己紹介と問題意識のシェア
- 問題意識の報告
- 問題解決にむけて



2

1. スタッフ紹介・趣旨説明

①A部会スタッフ紹介

講師、スタッフ、研究部長

②A部会の趣旨説明



3

2. A部会のゴール

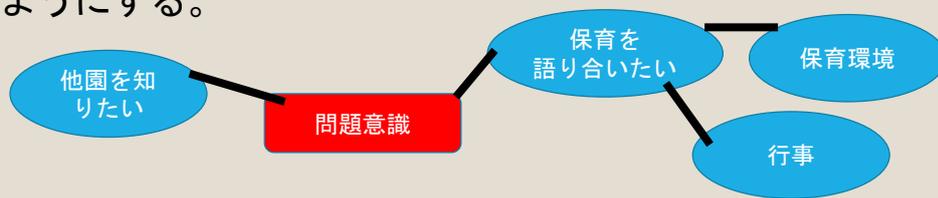
- A部会の参加者は自分の保育をより良くしたいという意識の高い人の参加が多い。
- そこでは、保育の何らかの知識や解答を得て学ぶという受動的参加者ではなく、**自らが保育を改善・持続的に質向上を目指す保育者の集まり**といえる。
- そこで、本部会では、互いの園環境を越え、保育について語り合い、その**改善の当事者意識をもち、努力を積み重ねる人**を一人でも多く輩出したいと考える。



4

3. 問題意識の共有

- 参加者の自己紹介と各自の問題意識の共有
- WEB図を用いて、それを書き出し、自分の考えを整理して、ブレイクアウトセッションを行う。
- また、ブレイクアウトセッションでも、進行役を決め、各自がそれぞれの問題意識を WEB図かし、整理して、発表が行えるようにする。



5

4. 保育を良くする主体、当事者意識を醸成する Agency

- ある小学校の校長先生のスタートカリキュラムの話から。+ 北欧の小学校



6

5. 「**ニュー・ノーマル**」な時代に 求められる教育



- 「**ニュー・ノーマル**(New Normal)」とは「**新しい常態**」を意味し、この新型コロナウイルスが起こり社会が変化し、変化以前と同じ姿に戻ることができず、新たな常識が定着することを指しています。これはコロナ以前から、ネット社会の到来やリーマンショックで社会の在り方や人々の意識が変わったことに起因しています。他には気候変動など、様々な問題があり先行き不透明な世界にあって、教育もまた、「**ニュー・ノーマル**」な姿が求められています。

7

OECDによる未来目標の変化

- 従来、OECDが考えてきた人材、コンピテンシーは社会経済に対応していくための雇用可能性や生産性に重きが置かれていた。しかしながら、**ニュー・ノーマル**な変化により、むしろ重要なことは、自分たちの未来をどのように作り出していくかという能動的な姿勢であり、社会全体としてのウェルビーイング、**幸福、私たちが実現していきたい未来、人々が共有すべきゴール**である。この目標が国連が2015年に定めた持続可能な開発目標**SDGs**と重なりあうようになった。



8

「地球は私たち人間なしにでも存在できますが、私たちは地球なしでは存在できません。先に消えるのは私たちです。」

アミーナ・モハメッド

国連副事務総長



9

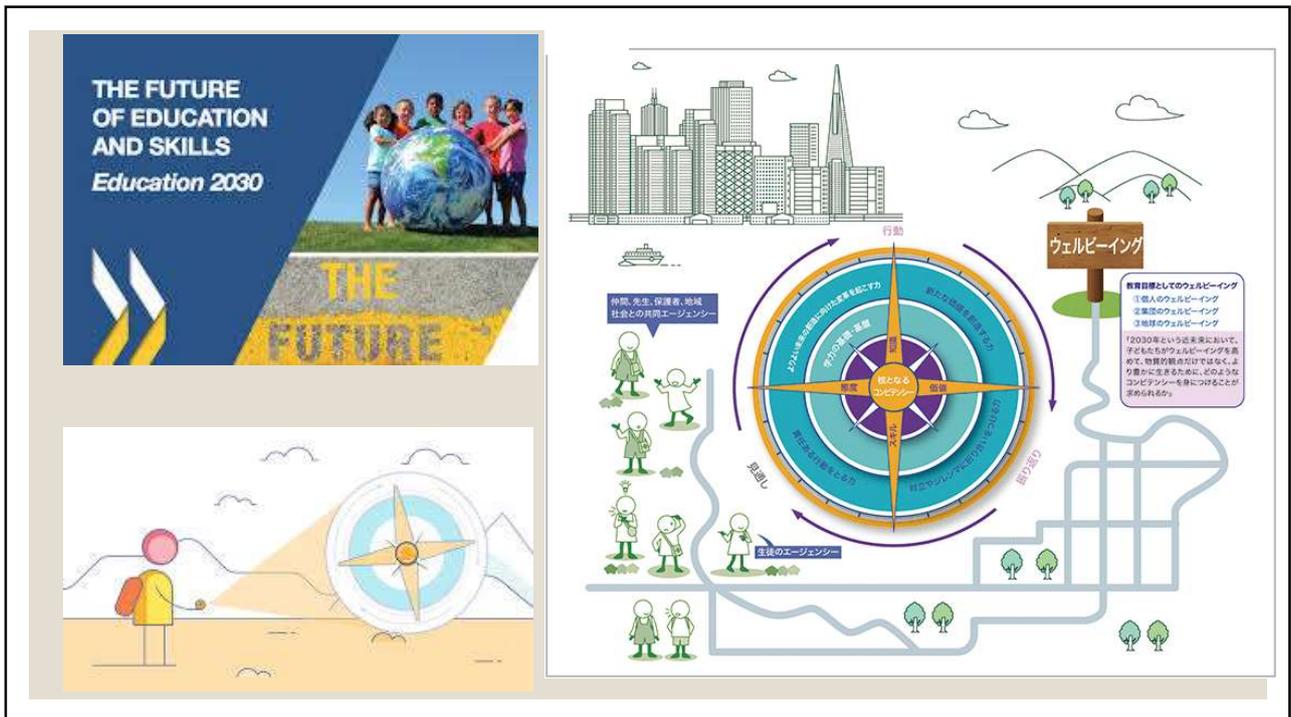
6. OECD Education2030プロジェクト

学びの主体 当事者意識 Agency

- どのような学習が必要か・・・生徒が単に決まりきった指導を受けたり、教師から方向性を指示されるだけでなく、未知の状況においても自分たちの進むべき方向を見つけ、自分たちを舵取り(navigate)していくための学習の必要性を強調する。
- ここで必要とされる子ども像がAgency 学びの主体としての子どもである。それは、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」である。
- そして、そのことは自分の単なる欲求の実現ではなく、その社会に対する責任を伴うものである。



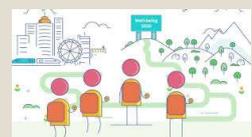
10



11

共同エージェンシー (Co-agency)

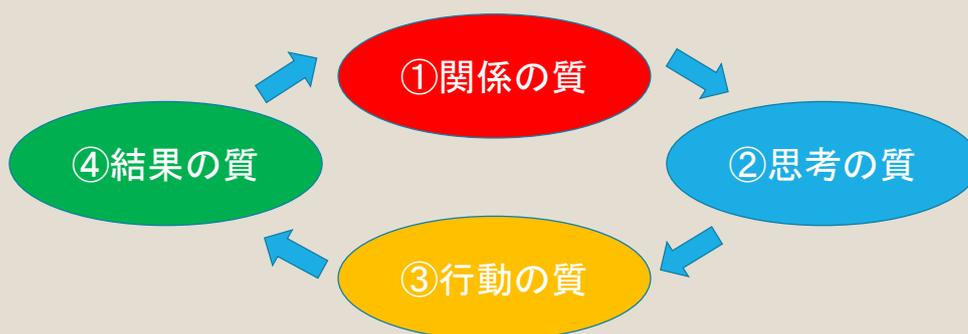
- 子どものエージェンシーは、その子一人だけで育まれるものではなく、親、教師や仲間、コミュニティーなど、**周囲との関係の中で育まれていく**のです。
- とりわけ、**集団でのエージェンシーを発揮していくためには、目指すべき方向性を共有しながら、一人一人が社会的な責任を果たしていくことが重要です。**



12

7. 保育者自身も学びの主体

- ダニエル・キムの組織の成功循環モデルより



13

8. 次回の部会

- 参加者の今の問題意識について、考え、試みたことについてレポートする。
- できれば写真等も添付して。
- 次回は6月21日なので、**6月16日**までに自分がまとめた資料を県連事務局に郵送か、PDFで送る。



14

